

## 児童支援

### ○学校生活のきまり『みんなのやくそく』

4月に各学級で子どもたちといっしょに確認し、家庭へ配布しました。黄色い通学帽を被り、通学路を歩いて安全に登下校できるように、ご家庭のご協力をお願いします。持ち物の確認を随時行いました。筆記用具や筆箱など学習で使うものは、学習に集中できるようにするため、またトラブル防止のため、華美でないシンプルなものとしています。無記名の落とし物も多く見られます。持ち物の管理を自分でしっかりとできるようにしたいです。家庭との共通理解のもと規範意識を育み、子どもたちが自ら考え行動できるように指導して参ります。

### ○教育相談

定期個人面談に加え、毎月教育相談日を設けました。保護者の思いを受け止め、迅速に対応するように努めました。相談の内容により、通級指導教室や総合教育センターの相談室を紹介して連携し、よりよい支援について検討して参りました。月2回ほど巡回カウンセラーが派遣されております。困り感の背景について、心理面から保護者や子どもたちをサポートしています。今後も必要な外部機関との連携を継続し、適切な支援を行っていきたいと思います。

### ○児童支援

学習面や対人関係などの児童の状況やクラスの様子など、担任の見取りを学年で共有し支援の方法を考えるようにしました。また毎月の児童支援部会で、丁寧に児童理解を行いました。全教職員で情報を共有し、同じように指導・支援するようにしました。

学習に課題を抱える児童には、入り込みや取り出しの指導をしました。各クラスでは、どの子も分かる楽しい授業になっているか、多様な支援が準備されているか、学習環境が整っているかという視点で授業を振り返り改善を図りました。

全クラスで『SOS の出し方・受け止め方教育』を実施しました。自分自身を知るとともに心の痛みを感じた時には言葉で伝えることを学びました。教員や保護者に相談する児童が増え、早めの対応ができるようになっていきます。

中原警察署の生活安全課と連携して、3年・6年で情報モラル教室を、4年・5年でいじめ防止教室を行いました。とても真剣な表情で話を聞いていました。相手の気持ちを考えて正しい行動をすることの大切さを学びました。来年度も実施していきます。

(情報モラル教室やいじめ防止教室に参加した児童の感想)

- ・ラインのやり取りで、文章の打ち方によって相手に誤解が起こり仲間外れになることもある。きちんと読み返そうと思った。(3年生)
- ・堂々と他の人に言えないことはやらない。(4年生)
- ・法律や犯罪の話聞いて怖いところもあったけど、自分の生活を見直すきっかけになった。「こども六法」という本を読み始めた。(5年生)
- ・中学校ではもっとトラブルが増えると思う。いろんなことを正しく知っておくことが大切だと思った。(6年生)